

## 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No. 21

## 目次

・特集：不妊症看護認定看護師の活躍	1
・不妊症看護認定看護師活動調査速報	2
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.4	3
・生殖看護を学べる大学・大学院のご紹介(2)	3
・これから行われる学会・研修会等のお知らせ	4
・第7回日本生殖看護学会学術集会のご案内	5
・理事会報告	5
・勉強会のお知らせ	6
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	7
・不妊看護に関するQ&A	7
・日本生殖看護学会 理事および監事選挙告示	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

## 特集：不妊症看護認定看護師の活躍

山梨大学 遠藤 俊子

第6回日本生殖看護学会学術集会（平成20年7月20日 於：兵庫県立大学）に参加して、不妊症看護認定看護師の活躍を目の当たりにして、とても嬉しい気持ちになりました。

この春、不妊症看護認定看護師の教育機関である神戸センターでの研修が不妊症看護認定看護師コースは休止する方針が決まり、研修生募集が停止しました。幸い聖路加看護大学看護実践開発研究センターが同年に認定看護師教育課程「不妊症看護コース」を開講されたものの、なかなか研修生の確保が難しい状況の中で、どうしたものか思案に暮れておりました。そんな時期に、やっぱり認定看護師は必要と実感した大事な節目でもありました。

## ω神戸センターを振り返る

神戸センターでの研修は、平成14年に1期生が入学し、同センターでの平成19年度の不妊症認定看護師コース最後の担当教員は、不妊症認定看護師の産み母（申請者）であった渡部尚子先生でした。先生は、平成19年3月に埼玉県立大学の副学長を定年退職されて、やっとゆっくり今まで書きたかったことの整理や、身近なご親族のご逝去が続き、遺品の整理もしたい…状況の中、専任教員不足で神戸の存続の危機を訴えたところ、「責任があるからね～頑張ってみるわ。」と、先生の律儀な面を頼りにしての依頼を、サプライズなお引き受けをしていただきました。

## ωはじめから予想された困難

思い起こせば、7・8年前、日本看護協会助産師職能長（理事）として、日本の生殖医療のこれからの思うときに看護職の役割が大事になるという先生の思いは大きく、また女性の健康支援にもっと国家的支援があるだろうという見込みでの立ち上げでした。

その時から、他の看護領域と異なり、国公立総合病院や大学病院からの派遣ではない研修生は集まるだろうか？不妊治療サイクルを考えると、研修期間に効果的な実習が可能であろうか。様々な困難は予想されつつも、理念で押して開講にこぎつきました。初代の専任教員も柴田先生と川元先生に着任を頂きました。同時に、現理事長森明子先生のご尽力により、ネットワークから学会への立ち上げがされ、名実共に支援学会ができました。

## ω不妊症看護認定看護師が変えてきた看護実践

それから6年、不妊看護のケアレベルが、認定看護師を中心に確実に成果が出ていることを肌で感じました。学会は一見、教員の方が概念の整理やまとめることが巧くみえますが、実践者の強みを感じる発表が続きました。ケアの核心をつく視点は実践者ならではのものを幾つか聴きました。また、今回の運営は認定看護師のネットワークを使い、見事な協力をされていました。これこそが、自律した集団であることを確信し、羨ましい思いも持った次第です。今後、このウェーブをもっと大きくするには、もっと研修生を増やす取り組みをしたいものです。

# 不妊症看護認定看護師 活動調査速報

遠藤 俊子・小川 さゆり・渡部 尚子

日本看護協会神戸センターでは、日本生殖看護学会の協力を得て、不妊症看護認定看護師の研修受講状態や、認定看護師・勤務場所の管理者・同僚を含めた381名（回収241名）に認定看護師の役割の実際や研修後の変化を明らかにするための調査を実施しました。今回は認定看護師の概要のみを速報とします。全文は、次号学会誌に掲載予定です。

調査は、住所のわかる71名を対象に行い、回収数は55名（回収率77.5%）でした。

## 1. 不妊症看護認定看護師の属性（表1）

回答者の平均年齢は、 $39.8 \pm 5.9$ 歳（29～54歳）でした。認定看護師としては2年7ヶ月が平均ですが、看護師として実務経験は平均 $16.1 \pm 5.8$ 年で、最長29年、最短5年でした。現在の就業場所は、大学病院14名（25.5%）、公立総合病院13名（23.6%）、不妊専門クリニック12名（21.8%）の順で多く働いています。

また、現在の職位は、師長が6名（7.0%）、副看護師長が24名（28.0%）、スタッフが19名（22.0%）で、31名（36.0%）しか、不妊症看護認定看護師と院内表示していませんでした。所属学会は、日本生殖看護学会53名（96.4%）、日本看護協会50名（90.9%）、日本生殖学会42名（45.5%）の順に多かったです。

## 2. 日常的に行っている業務

日常的に行っている業務を全米高度生殖医療センター勤務者の日常的仕事の分類（2005）を参考に6項目を質問したところ、53名の回答がありました。全体では、不妊看護47名（88.7%）、妊婦ケア32名（60.4%）、分娩時ケア22名（41.5%）、産褥ケア29名（54.7%）、新生児ケア18名（34.0%）、不妊以外の婦人科ケア29名（54.7%）と、不妊看護以外の業務も含めていることが多いことがわかりました。特に、所属施設別にみると、その差が明らかになり、大学病院や公立総合病院においては、不妊看護以上に周産期に関わる業務が多く、一方不妊専門クリニックは不妊看護中心に日常業務が生まれ、妊婦と婦人科ケアがわずか加わるのみでした。

## 3. 資格取得後の不妊看護実践能力の変化

これらの項目について、認定初年時と現在の状況をみました。資格取得後の自己意識の変化としては、仕事意識は“大いに变化した”と感じた34名（64.1%）、“少し变化した”16名（30.1%）と多数が回答し、上司の期待、同僚の期待、患者の期待も变化した割合も60%程度でした。

## 4. 認定看護師の所属施設における効果

認定看護師がいることによる施設への効果については、“ニーズに則した看護の提供”86%、“看護のレベルアップ”82%、“認定看護師への相談”66%、“患者からのクレーム・トラブル対処”、“多職種間コミュニケーション”各65%などと、大きく貢献していました。

## 5. 認定看護師としての活動を充実させるために必要な支援

院外での活動を行うこと、院内での看護職や他部署の理解を得ることは、ほぼ100%であり、認定看護師としての給与処遇などは80%程度でした。

表1 認定看護師の属性 (n=55)

項目	内容	人数 (%)
年 齢	25-29歳	1 (1.8)
	30-34歳	11 (20.0)
	35-39歳	16 (29.0)
	40-44歳	17 (30.9)
	45-49歳	6 (10.9)
	50歳以上	4 (7.2)
就 業 先	大学病院	14 (25.5)
	公立総合病院	13 (23.6)
	私立総合病院	7 (12.7)
	産婦人科専門病院	2 (3.6)
	有床産婦人科診療所	2 (3.6)
	不妊専門クリニック	12 (21.8)
	その他	3 (5.5)
免 許 ・ 資 格	無回答	2 (3.6)
	保健師	3 (5.5)
	助産師	38 (69.0)
	看護師	55 (100.0)
所 属 学 会	IVFコーディネーター	12 (21.8)
	不妊カウンセラー	11 (20.0)
	日本生殖看護学会	53 (96.4)
	日本不妊カウンセリング学会	25 (45.5)
	日本生殖学会	42 (76.4)
	日本看護協会	50 (90.9)
	日本助産師会	11 (20.0)
日本母性衛生学会	9 (16.4)	

不妊症看護認定看護師  
リレー寄稿

No.  
4

## 「ゆっくりと一歩ずつ・・・ 奈良県より」

ASKA レディースクリニック 一庵 昌代

寒い季節になりました。5期生の藤島さんよりバトンをうけた3期生の一庵昌代です。毎日、底冷えする寒さに耐えながら過ごしています。

私は、奈良県の不妊治療専門機関である ASKA レディースクリニックに勤務しています。奈良県は、不妊治療を専門に行なっている医療機関が少なく、また、隣接の京都府南部にも不妊治療専門の医療機関はなく、当院には奈良県内はもとより京都府南部、遠くは三重県からも患者様が来院されます。

クリニック内の活動としては、年に2回程度「あすか会」という患者会を開催しています。開催の目的は、孤独になってしまいがちな不妊治療で、同じ経験をしているもの同士、仲間を見つけてもらおうというものです。認定看護師になってから、計3回開催しました。参加者の方々より「参加してよかった」「話を聞いて自分だけじゃないと思えた」「話す場ができてよかった」などの意見が聞かれました。毎回、参加者の募集方法や会の進行方法などについて試行錯誤しています。現在は、不定期の開催なので、定期的な開催を目指し、また、あすか会に参加することにより、不妊治療に伴う大きな負担を少しでも減らせることができると考えています。他には、ART を始める患者様へ個別にオリエンテーションを行なっています。今後は、対象を広げ、相談室を開設することが目標です。

現在、私は2月に出産し育児休業中なのですが、顕微授精をして授かりました。治療を始めたときには、認定看護師になっていたのも、治療中には不妊治療に関する様々な知識がとても役に立ちました。「知っている」ということは、大きな武器になるのだと感じました。不妊は特殊な状況ではないことを知っているだけで、治療がうまくいかなかったときに自己否定感を持たず治療を続けられたと思います。また、治療を選択する際にも夫婦で話し合い自分たちの選択ができました。幸い子どもを授かることができましたが、不妊治療の止め時の難しさを知っているため、止める時期についても治療を始めるときに決め、ずるずると治療を続けることがないように、その後の人生での楽しみを作っていました。今後、この経験を生かし患者様に知識という武器を身に付けてもらえるための活動をしていきたいと考えています。

次に、バトンを渡すのは同じ3期生の関さんです。関さん、よろしく願いいたします。

～将来検討委員会より～

### 生殖看護を学べる大学・大学院のご紹介(2)：三重県立看護大学

生殖看護をテーマに研究を進めている学生のいる大学・大学院のご紹介として、第2回は三重県立看護大学の村本淳子先生・崎山貴代先生にお話を伺いました。

筆者：生殖看護について、学部教育ではどのように取り入れていますか？また、学生の反応はいかがですか？

村本：学部2年次必修科目の『母性看護方法1』で、妊娠成立や不妊を中心に1コマ学習します。学生の関心も高く、「不妊女性の多さに驚いた」といった感想が聞かれます。3年次の母性看護学実習や4年次の助産実習では不妊治療後の妊産褥婦とかかわることがありますので、2年次で学習したことを生かしつつ、さらに関心が深まった学生は、4年次の卒業研究で生殖看護をテーマとして学習を継続しています。

筆者：生殖看護について基礎教育で学ぶ機会があると、学生はその後どんどん自分の興味や関心を広げていくのですか。大学院生はどのような活動や研究をしていますか？

村本：自分の関心や研究テーマに基づいて演習を行います。ある学生は、『不妊治療後の妊娠』をテーマにしておりましたので、教員が行っている研究の中で、テーマに関連する部分への参加を通して研究手法を学び、自己の修士論文作成に取り組みました。

筆者：生殖看護に関する社会活動についてはいかがでしょうか。

崎山：平成15年から年2回の割合で、「三重・不妊に関する勉強会」という講演や事例検討を中心とした勉強会を開催しています。メンバーは、医師や不妊症認定看護師を含めた看護職、行政職などです。行政の方には県からの生殖および母子に関連した報告などをお願いし、県内の情報交換の場としても活用されています。また、本学には地域交流研究センターがあり、地域専門ケア事業として「三重県不妊専門相談センター」の運営協力をしています。これは県が設置主体である電話相談事業で、本学内に設置されているものです。そこで、不妊相談員への助言や情報提供などの相談活動の支援を行い、不妊に悩む方々への間接的サポートを行っています。また、相談の質の向上を図るために「不妊相談検討会」が開催されており、医師会や助産師会、不妊の自助グループなどと連携を取りながら、継続した検討を行っています。さらに大学では、不妊に限らず、思春期や妊娠・出産、更年期の問題など生涯における女性の健康をサポートするために、男女共同参画センターと共同で、週1回、「助産師による健康相談」の活動を行っています。

筆者：行政や地域と連携をとりながらたくさんの地区貢献をなさっているのですか。2009年の学術集会は三重県での開催が予定されておりますので、ぜひこれらの活動についても会員にPRをお願いいたします。本日はありがとうございました。(文責：長岡)

<もっと知りたい方はコチラ>

三重県立看護大学・大学院：<http://www.mcn.ac.jp/>

三重県不妊専門相談センター：<http://www.pref.mie.jp/D1KODOMO/kodomok/soudan/funin.htm#01>

●●●2009年 これから行われる学会・研修会等のお知らせ ●●●

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
2009年 4月	3日～5日	日本産科婦人科学会 (第61回) 「育て若き指導医たち」	国立京都国際会館 (京都市)	久留米大学医学部産科学婦人科学教室内 TEL (0942)31-7573 FAX (0942)35-0238 <a href="http://www.jsog.or.jp">http://www.jsog.or.jp</a>
5月	22日～24日	日本遺伝カウンセリング学会 (第33回)	兵庫医科大学 (西宮市)	<a href="http://www.jsjgc.jp/">http://www.jsjgc.jp/</a>
6月	5日	日本不妊カウンセリング学会 (第8回)	未定	<a href="http://www.jsinfoc.com">http://www.jsinfoc.com</a>
	6日・7日	日本心身医学5学会合同集会 (第1回) 「近未来医療を担う心身医学」 日本女性心身医学会(第38回) 「女性のライフサイクルに おけるストレスと心身医学」	東京国際フォーラム (千代田区)	ヒューマン・リサーチ TEL (03)3358-4001 FAX (03)3358-4002 <a href="http://www.jsp5cc.org/index.html">http://www.jsp5cc.org/index.html</a> <a href="http://www.jspog.com/">http://www.jspog.com/</a>
	20日	日本母性看護学会(第11回) 「子育て子育て文化の再生 と母性看護」	千葉大学 けやき会館他 (千葉市)	千葉大学看護学部母性看護学教育研究分野(石井) FAX (043)226-2414 <a href="http://www.mcn.ac.jp/bosei/index.htm">http://www.mcn.ac.jp/bosei/index.htm</a>
	27日・28日	日本保健医療行動科学会 (第24回) 「ケアの現在と未来 -気づきと行動変容のために-	甲南大学 (神戸市)	甲南大学文学部 谷口文章研究室気付 TEL (078)435-2368 FAX (078)435-2368 <a href="http://jahbs.info/">http://jahbs.info/</a>
	28日～1日	ESHRE:ヨーロッパ生殖医学会 (第25回)	アムステルダム (オランダ)	ESHRE Central Office TEL +32- (0)2-269.09.69 FAX +32- (0)2-269.56.00 <a href="http://www.eshre.com/">http://www.eshre.com/</a>
	29日～3日	ICN Quandrennial Congress: ICN4年毎大会(第24回) 「変革をリードしより健康 な国作りを」	ダーバン (南アフリカ)	日本看護協会 <a href="http://www.nurse.or.jp/">http://www.nurse.or.jp/</a> <a href="http://www.icn.ch/congress2009/program.htm">http://www.icn.ch/congress2009/program.htm</a>
8月	6日・7日	日本受精着床学会 (第27回)	国立京都国際会館 (京都市)	<a href="http://www.jsfi.jp/index.html">http://www.jsfi.jp/index.html</a>
	6日・7日	日本看護学会:母性看護 (第40回)	佐賀市文化会館 (佐賀市)	日本看護協会看護教育研究センター <a href="http://www.nurse.or.jp/index.html">http://www.nurse.or.jp/index.html</a>
9月	13日	日本生殖看護学会(第7回) 「文化の視点から生殖看護 を考える」	三重県立看護大学 (津市)	三重県立看護大学 母性看護学教室(崎山) TEL/FAX (059)-233-5616 <a href="http://jsin.umin.jp/">http://jsin.umin.jp/</a>
	19日・20日	世界看護科学学会(第1回) 「看護知識の新たな領域の 創造に向けた挑戦」	神戸国際展示場 (神戸市)	<a href="http://wans.umin.ne.jp/index.html">http://wans.umin.ne.jp/index.html</a> <a href="http://wans.umin.jp/index.html">http://wans.umin.jp/index.html</a>
	27日・28日	日本母性衛生学会(第50回)	パシフィコ横浜 (横浜市)	<a href="http://www.bosei-eisei.org/">http://www.bosei-eisei.org/</a>

不妊看護の交流集會を企画して  
いますので、ぜひご参加下さい

ぜひご発表・ご参加下さい

\* 2008年12月7日現在の情報です。詳細は各学会・学術集會事務局へお問い合わせください。

## 第7回日本生殖看護学会学術集会のご案内

－文化の視点から生殖看護を考える－

2009. 9.13 (Sun) in 三重県立看護大学

皆さんは、対象の看護にかかわられる中で、文化という視点で足をとめてみたことがありますか？その地域がもつイエ意識の強さから望まぬ治療を受ける方や、地域での親密性の高さから人知れず地元から離れた医療施設を選択される方がいます。また、交通アクセスが不便であるがゆえに望む医療が受けられず、願いを断念される方がいます。このように、不妊に悩むカップルは、知らず知らずのうちに、地域の子どもをもつことに関する意識や慣習、その土地の交通事情が作る経済文化などの影響を受けています。しかし、逆に、不妊治療の現状が古い価値観を崩壊させ、新しい文化を創りあげているのも事実です。

文化は生殖に、そして生殖は文化に何をもたらしているのか、また、求められる生殖看護とはどのようなものなのか、皆で考えてみたいと思います。「神の国」そして「美し国」とされる伊勢で、皆様の参加をお待ちしております。

学術集会長 村本 淳子

## 理事会報告

### 第1回理事会報告

日時：2008年9月27日(木) 18:05～20:10

場所：聖路加看護大学 6階 講義室B

出席理事：森明、有森、森憲、野澤、遠藤、村本、長岡、小川、清水

#### 【報告事項】

##### 1. 各委員会報告

- 1) 実践開発委員会：相談メールへの助言をいただいた協力者への謝礼は3,000円に決定。不妊症看護認定看護師フォローアップセミナーを、今後は学会としてバックアップ。
- 2) 教育推進委員会：次回の生殖看護実践セミナーは、東京都内で開催予定。開催時期は検討中。
- 3) 編集委員会：医中誌よりWEB掲載の契約依頼あり。これを受ける方向で交渉。

##### 2. その他

- 1) 第6回日本生殖看護学会学術集会 報告
  - ・参加者は207名。
  - ・学会の決算については次回の理事会にて報告予定。
- 2) 第7回日本生殖看護学会学術集会 経過報告
  - ・内容および企画委員・実行委員等を検討中。
- 3) 平成19年度収支決算報告
  - ・8月31日付けで収支決算書を会計監査に提出、監査を終了。
  - ・ニュースレターNo.20の増補版として平成19年度収支決算書を同封し、会員に周知。

#### 【審議事項】

1. 第2回役員選挙について
  - ・選挙管理委員を上澤悦子氏、遊佐浩子氏、割田節子氏の3名に委嘱することを承認。
2. 人会審査：4名の新規入会を承認。

### 第2回理事会報告（書面）

日時：2008年10月31日(金)

#### 【審議事項】

人会審査：3名の新規入会を承認。



## 勉強会のお知らせ

### 第6回 九州地区勉強会

#### テーマ「肥満と不妊」

肥満女性は、体脂肪が多いことから女性ホルモンが過剰になりホルモンバランスが崩れてしまい、多嚢胞性卵巣症候群などの排卵障害を引き起こします。さらに、肥満の人が妊娠したとしても妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群などになってしまうリスクが高くなると言われています。総合病院や大学病院では、肥満やPCOS患者に対しては内科と連携し、不妊治療を進めていきますが、クリニックでは内科との接触が少ないため、十分な管理ができていない現状があります。そこで「肥満と不妊」についての勉強会を行い、肥満、栄養指導、PCOS、等の理解を深め患者への支援のあり方を考えたいと思います。

#### 【プログラム】

14:00～ はじめに

14:10～14:30 <事例紹介> 国家公務員共済組合連合会浜の町病院産婦人科

不妊症看護認定看護師 金丸 道子

14:30～15:20 <講演 1> 「“シンドロームXX”メタボリックシンドロームとしてのPCOS(仮題)」

熊本大学大学院医学薬学研究部産科学分野 医学博士 大場 隆先生

15:20～15:30 休憩

15:30～16:20 <講演 2> 「肥満とストレス」～わかっちゃいるけどやせられないメカニズム～

ウェルネスサポート研究所 (<http://www.wellness-lab.com/index.htm>) 八木 香里先生

(助生涯学習開発財団認定 コーチ (助生涯学習開発財団認定 健康運動指導士

NPOヘルスカウンセリング学会認定 ヘルスカウンセラー

16:20～17:00 質疑応答・まとめ

【日 時】平成21年1月25日(日)14:00～17:00 【参加費】1,000円(資料・お茶代)

【場 所】国家公務員共済組合連合会 浜の町病院研修講堂(別館健康医学センター5階)

〒810-8539 福岡市中央区舞鶴3-5-27 TEL 092-721-0831(代表)

【申し込み・問い合わせ先】蔵本ウイメンズクリニック 久保島 美佳

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-1-19

Tel: 092-482-5558 FAX: 092-482-1415 E-mail: info@kuramoto.or.jp

### 関西地区勉強会

【テーマ】「遺伝カウンセリングと看護」

【ねらい】不妊治療患者において、ICSIでの影響や高齢妊娠などに伴う染色体異常に関する不安が多く聞かれる。遺伝カウンセラーは関西でも非常に少なく、どのような遺伝カウンセリングが行われているのかを知る機会が少ないのが現状である。

そこで、遺伝カウンセラーからカウンセリングの実際を学ぶことで、私たち不妊看護の役割を考えていく。

#### 【プログラム】

13:00～ 受付開始

14:55～15:10 事例紹介

13:30～13:40 オリエンテーション・講師紹介

15:10～15:50 事例検討

13:40～14:40 講演 福岡レディースクリニック 認定遺伝カウンセラー 佐藤有希子先生

15:50～16:15 発表

14:40～14:55 休憩

16:15～16:30 まとめ・アンケート記入

【日 時】平成21年1月31日(土) 13:30～16:30

【場 所】兵庫医科大学病院 会議室

【参加費】500円(資料代・お茶代)

【申し込み・お問い合わせ】

参加される方の氏名・所属・連絡先(電話番号・E-mail)・職種を明記の上、下記宛に、1月20日(火)までにFAXかE-mailでお送りください

FAX 06-6316-6088 (越田クリニック) E-mail: fujishima@koshida-cl.or.jp

藤島由美子 (越田クリニック・不妊症看護認定看護師)

## もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するQ&A』として、ニューズレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

### ◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

### ◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。



## 不妊看護に関するQ&A

**Q** 不妊外来で診察が終了した患者様への声かけについてお尋ねします。

「お大事に」「気をつけてお帰りください」と声をかけたところ、先輩から「あなたのその言い方はおかしい。お待たせいたしましただけでいい。実際に昔、『病気じゃないのにお大事にと言われても…』と言った患者さんもある。」と指摘を受けました。

今までどのような患者様にも自然と思って使っていた「お大事に」という言葉は、不妊の患者様には不適切なのでしょうか?先輩の助言の後、自然に患者様と接することができないように感じます。診察終了時の声かけについて、どのような言葉かけが適切なのでしょうか?

**A** 不妊の患者さんに対してどのような声かけが適切であるかというのは難しいですね。

施設の方針で、不妊は身体的な病気ではないので、「お大事に」という言葉は使用しない所は結構多いです。そのかわりに“お疲れ様”のような挨拶を励行しているようです。

しかし実際は、自分が目の前にいる患者さんにどのような心遣いをしているかによって違ってく

ると思います。たとえば流産後や採卵・腹腔鏡・子宮鏡などの小手術で痛みを伴う処置を受けられた場合、“お大事に”という言葉は必要だと思います。言葉は、どのような患者さんに、どのような時に使用するのかということが大切です。体に病気がなくても心が病んでいたり、ストレスを強く受けている人には、“お大事に”という言葉が必要だと思います。しかし、業界用語をルーチンで使っている挨拶感覚ならば、それは適していなかったのかもしれませんが。

本当にその患者さんが“お大事に”という言葉が必要としているならば、自信を持って使われたら良いのではないかと思います。そして先輩に「こういう状況だったので使用しました」と、ご自分の考えをアサーティブに伝えられてはどうでしょうか?

一つ一つの場面で、自分の行為を振り返るということは大切だと思います。こうした引っ掛かりをその時に立ち止まって考え、看護者としての感性を磨いて行くことが、ひいてはより良い看護につながっていくのだと思います。年数を積むほど人間はそのような感覚に鈍感になってしまうものなので、また、困ったことなどがあればいつでもご相談ください。

## 日本生殖看護学会 理事および監事選挙告示

選挙は、「日本生殖看護学会理事および監事の選出規程」に則って実施されます。

選挙管理委員が組織されました。次期の理事および監事選挙に関して、この選挙管理委員会が責任を持って執り行わせていただきます。

選挙管理委員会 委員長：上澤悦子  
委員：遊佐浩子、割田節子

下記のとおり理事および監事の選挙が実施されます。

投票用紙は、各選挙人の連絡先にお送りしますので、送付される所定の用紙を使って指定の期日までに投票してください。

### 1. 選挙人および被選挙人

平成21年3月31日までに会費を納入した会員を選挙人および被選挙人としてします。

### 2. 選挙の実施および方法

- (1) 投票締め切り 平成21年4月28日（当日消印有効）  
 (2) 投票用紙送付先 〒228-0829 神奈川県相模原市北里2-1-1  
 北里大学看護学部  
 日本生殖看護学会選挙管理委員会宛  
 (3) 開票 平成21年5月23日(土)

## 事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380もしくはE-mail：jsin@slcn.ac.jpまで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp>）を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

## 重要 会費の納入をお願いします

平成20年度会費（平成20年9月1日～平成21年8月31日までの諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。なお、過年度の会費未納の方は、早急に納入をお願いいたします。

### 編集後記

皆さん、インフルエンザ対策はお済みですか？インフルエンザで学級閉鎖の情報が各地で流れている中、新型インフルエンザの恐怖も忍び寄ってきています。感染源から身を守るための手洗い・うがいの励行、パンデミックで外出できなくなることを想定し、最低でも2週間分の食料・日用品・薬品などを備えておくことしか、現在は対策がないようです。

今年もあと「い～くつ寝るとお正月♪」。今年は暗い話題がたくさんあった中、「アラフォー」世代の女性が活躍した年でしたね。来年は「アラサーティ」や「アラフィフティ」の活躍を期待し、1年を締めくくりたいと思います。来年は丑年、モーモーと不満ばかり漏らさず、反芻しながら物事を考えていきたいです。では、皆さん、よいお年を。

（広報委員：野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子）

### 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1  
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>